

かみまみま

広がる和紙の世界

伊勢半本店 紅ミュージアム 企画展



紙ですけど
なにか？

ほんとに
紙製！？って
よく言われる・・・

布にみえて
実は紙なんだな

ワシらみんな
紙からできて
おるんじゃ

おぬしも
紙か！？

2014年 11月1日[土] → 12月14日[日]

[開館時間] 10:00～18:00(入館は17:30まで) 毎週金曜日は10:00～20:00(入館は19:30まで)

[休館日] 毎週月曜日 ※ただし、11月3日(月・祝)、24日(月・振休)は開館、翌11月4日(火)と25日(火)を休館 [企画展観覧料] 一般500円

[主催] 伊勢半本店 紅ミュージアム [協力] 公益財団法人 紙の博物館・放送大学附属図書館・越前和紙の里 卯立の工芸館・其角堂コレクション

伊勢半本店 紅ミュージアム 東京都港区南青山6-6-20 K's南青山ビル1F TEL.03-5467-3735 <http://www.isehanhonten.co.jp>



あれもこれもそれも、

みんな和紙からできている。



1



2



3



中国で発明され、完成をみた製紙の技術が、日本にもたらされたのは記録上六一〇年といわれています。以来、楮・三桮・雁皮などの韃皮繊維を主原料に、強くしなやかな日本の紙が漉かれてきました。

かつて紙は、特定の層が特定の用に使う貴重品でしたが、近世になるとその消費層は町人社会にまで拡大します。製紙が広範に行われ、市場には蔵物・納屋物各種の紙が流通し、その種類はゆうに数百種を超えました。

紙といえば書写・印刷媒体としての用途がまず挙げられますが、近世社会、それも京都・大坂・江戸といった都市部において、紙は生活用品をつくる素材としても大量に消費されました。障子や屏風などの建具に、また行灯・提灯などの照明具に充てられた紙。油を引き、防水性を持たせ、傘や合羽に使われた紙。漆を塗り、耐久性を持たせ、煙草入れや文管に使われた紙。これらはみな、張り重ね、揉み、絞り、あるいは燃って編み、折り包むなどして日常生活の実用品に姿を変えた、もうひとつの紙のありかたでした。

本展では、江戸〜明治期の資料を中心に、紙の機能性と多様な加工法を紹介し、人々の生活を支えていた紙製品を通じて、紙の文化が息吹いていた様をご覧ください。



5



4



2

併催企画

「折形講座～江戸の優美なころ・祝いの包み」

日時：2014年12月6日(土) 14:00～16:00

講師：有馬霞水氏(東横学園女子短期大学 名誉教授)

定員：12名 ※定員に達し次第、受付終了。

参加費：2,000円

〔企画展観覧料〕

一般500円

小学生以下と障害者手帳提示者ならびに同伴者1名は無料

※観覧料と引き換えに企画展リーフレットが付きまます。

〔協力〕

公益財団法人 紙の博物館・放送大学附属図書館・

越前和紙の里 卯立の工芸館・其角堂コレクション

〔交通機関〕

●地下鉄

東京メトロ銀座線・半蔵門線・千代田線

「表参道」駅下車 B1出口より徒歩12分

B3出口(エスカレーター・エレベーターあり)より徒歩13分

●バス

①渋谷駅東口バスターミナル51番乗り場

都01系統 新橋駅前行き「南青山七丁目」下車 徒歩1分

都01系統 六本木ヒルズ折返し「南青山七丁目」下車 徒歩1分

都01系統 赤坂アークヒルズ行き「南青山七丁目」下車 徒歩1分

②渋谷駅東口バスターミナル59番乗り場

渋88系統 新橋駅前行き「南青山七丁目」下車すぐ

〔会場〕

伊勢半本店 紅ミュージアム

東京都港区南青山6-6-20 K's南青山ビル1F

TEL.03-5467-3735 <http://www.isehanhonten.co.jp>

